

デーヴォ ガイド



2024.12.9-15

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディポジションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

12:7 さて、天に戦いが起こって、ミカエルとその御使いたちは竜と戦った。竜とその使いたちも戦ったが、

12:8 勝つことができず、天にはもはや彼らがいる場所がなくなった。

12:9 こうして、その大きな竜、すなわち、古い蛇、悪魔とかサタンとか呼ばれる者、全世界を惑わす者が地に投げ落とされた。また、彼の使いたちも彼とともに投げ落とされた。

12:10 私は、大きな声が天でこう言うのを聞いた。「今や、私たちの神の救いと力と王国と、神のキリストの權威が現れた。私たちの兄弟たちの告発者、昼も夜も私たちの神の御前で訴える者が、投げ落とされたからである。

12:11 兄弟たちは、子羊の血と、自分たちの証しのことばのゆえに竜に打ち勝った。彼らは死に至るまでも自分のいのちを惜しまなかった。

12:12 それゆえ、天とそこに住む者たちよ、喜べ。しかし、地と海はわざわざいだ。悪魔が自分の時が短いことを知って激しく憤り、おまえたちのところへ下ったからだ。」

12:13 竜は、自分が地へ投げ落とされたのを知ると、男の子を産んだ女を追いかけた。

12:14 しかし、女には大きな鷲の翼が二つ与えられた。荒野にある自分の場所に飛んで行って、そこで一時と二時と半時の間、蛇の前から逃れて養われるためであった。

12:15 すると蛇はその口から、女のうしろへ水を川のように吐き出し、彼女を大水で押し流そうとした。

12:16 しかし、地は女を助け、その口を開けて、竜が口から吐き出した川を飲み干した。

12:17 すると竜は女に対して激しく怒り、女の子の残りの者、すなわち、神の戒めを守り、イエスの証しを堅く保っている者たちと戦おうとして出て行った。

12:18 そして、竜は海辺の砂の上に立った。

「女」は信仰の群れであると解釈できますから、その場合、天での戦いとはサタンが信仰を滅ぼそうとして攻撃するのだということが分かります。また「男の子」はイエス様またはイエスを信じる信仰の群れであるとするなら、サタンが標的にするのはイエス様に対する信仰です。

具体的には異端的な信仰によってイエス様の救いを歪めたり、薄めたりするでしょう。また信仰者の心に影響を与えて、礼拝や伝道をないがしろにするようにしむけるのです。教会内での競争や不和も策略の一つです。

私たちの信仰は単に自分自身の考えによる判断ではなく、このように天における戦いの勝利なのだと知りましょう。ですから自分自身の個人的な判断を越えたものであること、神の力なのだということです。さらには、もしも誰かを救いに導きたいなら、自分の頑張りだけではなく霊的な戦いにおいて主の勝利が必要なのだと知って、それを求めて祈り、また主の栄光を表してゆきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



10日 火曜

黙示録



13:1 また私は、海から一頭の獣が上って来るのを見た。これには十本の角と七つの頭があった。その角には十の王冠があり、その頭には神を冒瀆する様々な名があった。

13:2 私が見たその獣は豹に似ていて、足は熊の足のように、口は獅子の口のようにであった。竜はこの獣に、自分の力と自分の王座と大きな権威を与えた。

13:3 その頭のうちの一つは打たれて死んだと思われたが、その致命的な傷は治った。全地は驚いてその獣に従い、

13:4 竜を拝んだ。竜が獣に権威を与えたからである。また人々は獣も拝んで言った。「だれがこの獣に比べられるだろうか。だれがこれと戦うことができるだろうか。」

13:5 この獣には、大言壮語して冒?のことは語る口が与えられ、四十二か月の間、活動する権威が与えられた。

13:6 獣は神を冒瀆するために口を開いて、神の御名と神の幕屋、また天に住む者たちを冒?した。

13:7 獣は、聖徒たちに戦いを挑んで打ち勝つことが許された。また、あらゆる部族、民族、言語、国民を支配する権威が与えられた。

13:8 地に住む者たちで、世界の基が据えられたときから、屠られた子羊のいのちの書にその名が書き記されていない者はみな、この獣を拝むようになる。

13:9 耳のある者は聞きなさい。

13:10 捕らわれの身になるべき者は捕らわれ、剣で殺されるべき者は剣で殺される。ここに、聖徒たちの忍耐と信仰が必要である。

にせキリストとも言えるようなものが終りの日には勢力を増して、人々を惑わすようです。これはひょう、熊、ししのような力が備わっているようですから、多くの人々がこれに惑わされます。それでこの獣に権威を与えて竜を人々は拝むのですが、この竜はサタンであり、当然神に敵対するようになってしまうということです。

クリスチャンすなわち「聖徒たち」も、この獣には勝つことができないのですから、相当な苦しみとなることでしょう。また「とりこになる」者もなりますし、「剣で殺されるべき者は、剣で殺される」とありますから、怒りや復讐などによる戦いは無力であることが分かります。ここに「忍耐」があるのですが、私たちは最後は神様が勝利をとってくださいと信じていますから、主にゆだねるのが最善なのです。この世にあって、今からそのような歩みをして、本当の勇気を表しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



11日 水曜

黙示録

13:11 また私は、別の獣が地から上って来るのを見た。それは、子羊の角に似た二本の角を持ち、竜が語るように語っていた。

13:12 この獣は、最初の獣が持っていたすべての権威を、その獣の前で働かせた。また、地と地に住む者たちに、致命的な傷が治った最初の獣を拝ませた。

13:13 また、大きなしるしを行い、人々の前で火を天から地に降らせることさえた。

13:14 また、この獣は、あの獣の前で行うことが許されたしるしによって、地に住む者たちを惑わし、剣の傷を受けながらも生き返ったあの獣の像を造るように、地に住む者たちに命じた。

13:15 それから、その獣の像に息を吹き込んで、獣の像がものを言うことさえできるようにし、また、その像を拝まない者たちをみな殺すようにした。

13:16 また獣は、すべての者に、すなわち、小さい者にも大きい者にも、富んでいる者にも貧しい者にも、自由人にも奴隷にも、その右の手あるいは額に刻印を受けさせた。

13:17 また、その刻印を持っている者以外は、だれも物売り買いできないようにした。刻印とは、あの獣の名、またはその名が表す数字である。

13:18 ここに、知恵が必要である。思慮ある者はその獣の数字を数えなさい。それは人間を表す数字であるから。その数字は六百六十六である。

終りの日には、神に敵対する「獣」と呼ばれるものが、人々の心を神様から引き離すために「大きなしるし」を行って見せます。人々はその奇跡的な力



を慕いますが、結局は「その像を拝まない者をみな殺すようにした」とあるように、敵はサタンであることが明かになります。

クリスチャンでも神のみどころよりも「しるし」を好む人がいますが、警戒しなければなりません。大切なのは神のことばを聞いて行うことであって、不思議なわざに驚くことではありません。終りの日にその信仰が、奇跡を愛するのはいえん様を愛するのかが明確になります。

六百六十六が何であるのかはまだ知る由もありません。それを解き明かすなどというまやかしに惑わされる必要はありません。私たちは獣の「刻印」ではなく、キリストの証印が押されているのですから、恐れはないのです。信仰をいよいよ明確にして、信仰に生きていけばよいのです。

今の生き方が、終りの日の正しい判断になってゆくでしょう。生き方が信仰によっていないなら、終りの日の惑わしに対して弱いものになってしまうでしょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



12日 木曜

黙示録

14:1 また私は見た。すると見よ、子羊がシオンの山の上に立っていた。また、子羊とともに十四万四千人の人たちがいて、その額には子羊の名と、子羊の父の名が記されていた。

14:2 また、私は天からの声を聞いた。それは大水のとどろきのようにあり、激しい雷鳴のようでもあった。しかも、私が聞いたその声は、豎琴を弾く人たちが豎琴に合わせて歌う声のようであった。

14:3 彼らは御座の前と、四つの生き物および長老たちの前で、新しい歌を歌った。しかし、地上から贖われた十四万四千人のほかは、この歌を学ぶことができなかった。

14:4 この人たちは、女に触れて汚れたことがない者たちで、童貞である。彼らは、子羊が行く所、どこにでもついて行く。彼らは、神と子羊に献げられる初穂として、人々の中から贖い出されたのである。

14:5 彼らの口には偽りが見出されなかった。彼らは傷のない者たちである。

14:6 また私は、もう一人の御使いが中天を飛ぶのを見た。彼は地に住む人々、すなわち、あらゆる国民、部族、言語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音を携えていた。

14:7 彼は大声で言った。「神を恐れよ。神に栄光を帰せよ。神のさばきの時が来たからだ。天と地と海と水の源を創造した方を礼拝せよ。」

14:8 また、その御使いの後にもう一人、第二の御使いが来て言った。「倒れた、倒れた、大バビロンが。御怒りを招く淫行のぶどう酒を、すべての国々の民に飲ませた都が。」

14:9 また、彼らの後にもう一人、第三の御使



いがやって来て、大声で言った。「もしだれかが獣とその像を拝み、自分の額か手に刻印を受けるなら、

14:10 その者は、神の怒りの杯に混ぜ物なしに注がれた、神の憤りのぶどう酒を飲み、聖なる御使いたちと子羊の前で火と硫黄によって苦しめられる。

14:11 彼らの苦しみの煙は、世々限りなく立ち上る。獣とその像を拝む者たち、また、だれでも獣の名の刻印を受ける者には、昼も夜も安らぎがない。」

14:12 ここに、聖徒たち、すなわち神の戒めを守り、イエスに対する信仰をもち続ける者たちの忍耐が必要である。

14:13 また私は、天からの声がこう言うのを聞いた。「書き記せ、『今から後、主にあって死ぬ死者は幸いである』と。」御霊も言われる。「しかり。その人たちは、その労苦から解放されて安らぐことができる。彼らの行いが、彼らとともにについて行くからである。」

十四万四千人というのは、「女に触れて汚れたことがない者たち」とありますが、それは信仰の面においてであって、真の神以外ものを拝んだりしたことのない、純粋な信仰を守り通した人々という意味です。そのような人々は特別な栄誉が与えられ、誰も歌うことのできない讃美を歌うことができるのです。地上で純粋な信仰を持った人々は、永遠の国に行くときもその信仰のままであり、永遠に神の栄光となります。私たちも今の信仰が重要なのです。

そして「バビロン」と言われている、この世の悪魔の権威や都が滅ぼされます。「信仰をもち続ける聖徒たちの忍耐が必要である。」というのは、ここにその希望があるということでしょう。私の

ために十字架で救いを成し遂げてくださった神は、終りの日にも栄光に満ちた方であるので、自分の死でさえも「幸い」となるのだと信じましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 13日 金曜

黙示録

14:14 また私は見た。すると見よ。白い雲が起り、その雲の上に人の子のような方が座っておられた。その頭には金の冠、手には鋭い鎌があった。

14:15 すると、別の御使いが神殿から出て来て、雲の上に座っておられる方に大声で叫んだ。「あなたの鎌を送って、刈り取ってください。刈り入れの時が来ましたから。地の穀物は実っています。」

14:16 雲の上に座っておられる方が地上に鎌を投げると、地は刈り取られた。

14:17 それから、もう一人の御使いが天の神殿から出て来たが、彼もまた、鋭い鎌を持っていた。

14:18 すると、火をつかさどる権威を持つ別の御使いが祭壇から出て来て、鋭い鎌を持つ御使いに大声で呼びかけた。「あなたの鋭い鎌を送って、地のぶどうの房を刈り集めよ。ぶどうはすでに熟している。」

14:19 御使いは地上に鎌を投げて、地のぶどうを刈り集め、神の憤りの大きな踏み場に投げ入れた。

14:20 都の外にあるその踏み場でぶどうが踏まれた。すると、血がその踏み場から流れ出て、馬のくつわの高さに届くほどになり、千六百スタディオンに広がった。

終りの日は単に人類が苦しむものではありません。それは大いなるさばきのためです。すなわち神の敵は敵としてさばき、神の側に立つものは神のものとしてさばくのです。神様は敵が誰であるかが明確になるために、この世では勝手なことをさせているのですが、それも終わりが来ます。自由にさせていた者たちにかまを入れるようにして、さばくのです。



そして「神の憤りの大きな踏み場に投げ入れた。」とあるように、滅びへのさばきをなされるのです。終りの日は神に敵対していた者たちにとって悲惨な日となります。それは自分たちが自ら選択した道だから仕方ないのですが、私たちは一人でも救われるようにと、願ひ行動する思いになるものです。神様も今は忍耐しておられ、一人でも悔い改めに進むようにと願っておられます。終りの時を心に覚えながら、何とか救いを届けられるように、チャレンジしていきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 14日 土曜

黙示録

15:1 また私は、天にもう一つの大きな驚くべきしるしを見た。七人の御使いが、最後の七つの災害を携えていた。ここに神の憤りは極まるのである。

15:2 私は、火が混じった、ガラスの海のようなものを見た。獣とその像とその名を示す数字に打ち勝った人々が、神の豎琴を手にしてガラスの海のほとりに立っていた。

15:3 彼らは神のしもべモーセの歌と子羊の歌を歌った。「主よ、全能者なる神よ。あなたのみわざは偉大で、驚くべきものです。諸国の民の王よ。あなたの道は正しく真実です。

15:4 主よ、あなたを恐れず、御名をあがめない者がいるでしょうか。あなただけが聖なる方です。すべての国々の民は来て、あなたの御前にひれ伏します。あなたの正しいさばき が明らかにされたからです。」

15:5 その後、私は見た。天にある、あかしの幕屋である神殿が開かれた。

15:6 そして七人の御使いが、七つの災害を携えて神殿から出て来た。彼らは、きよく光り輝く亜麻布を着て、胸には金の帯を締めていた。

15:7 また、四つの生き物の一つが、七人の御使いたちに七つの金の鉢を渡したが、それには世々限りなく生きておられる神の憤りが満ちていた。

15:8 神殿は、神の栄光とその御力から立ち上る煙で満たされ、七人の御使いたちの七つの災害が終わるまでは、だれもその神殿に入ることができなかった。

「神の激しい怒りはここに極まる」というような恐ろしい災害が始まるのですが、信仰者は「あなた



のみわざは偉大」と、喜びの讃美をささげています。なんという平安でしょうか。これが信仰者に与えられている特権です。それは今の世においても同じです。困難な中において主の救いと守りを信じている者は、神様に信頼して平安でいられて讃美が出てくるのです。

そしてその信仰がそのまま終りの日にも表れます。または個人的な終りの日である肉体の死に際しても同じです。終りの日の完全な勝利に根ざして、今においても平安を与えられましょう。そして心に勝利をいただきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





16:1 また私は、大きな声が神殿から出て、七人の御使いに、「行って、七つの鉢から神の憤りを地に注げ」と言うのを聞いた。

16:2 第一の御使いが出て行き、鉢の中身を地に注いだ。すると、獣の刻印を受けている者たちと獣の像を拜む者たちに、ひどい悪性の腫れものができた。

16:3 第二の御使いが鉢の中身を海に注いだ。すると、海は死者の血のようになった。海の中にいる生き物はみな死んだ。

16:4 第三の御使いが鉢の中身を川と水の源に注いだ。すると、それらは血になった。

16:5 また私は、水をつかさどる御使いがこう言うのを聞いた。「今おられ、昔おられた聖なる方、あなたは正しい方です。このようなさばきを行われたからです。

16:6 彼らは聖徒たちや預言者たちの血を流しましたが、あなたは彼らに血を飲ませられました。彼らにはそれがふさわしいからです。」

16:7 また私は、祭壇がこう言うのを聞いた。「しかり。主よ、全能者なる神よ。あなたのさばきは真実で正しいさばきです。」

16:8 第四の御使いが鉢の中身を太陽に注いだ。すると、太陽は人々を火で焼くことを許された。

16:9 こうして人々は激しい炎熱で焼かれ、これらの災害を支配する権威を持つ神の御名を冒した。彼らが悔い改めて神に栄光を帰することはなかった。

16:10 第五の御使いが鉢の中身を獣の座に注いだ。すると、獣の王国は闇におおわれ、人々は苦しみのあまり舌をかんだ。

16:11 そして、その苦しみと腫れもののゆえに天の神を冒し、自分の行いを悔い改めようとしなかった。

16:12 第六の御使いが鉢の中身を大河ユーフラテスに注いだ。すると、その水は涸れてしまい、日の昇る方から来る王たちの道を備えることになった。

以前に7つの封印が解かれて、それぞれに天変地異が起こりました。そして7つ目に終りかと思うと、その7つ目にはラツバが始まり、それぞれに災害が始まったのです。そしてその災害も7つめに終りかと思うと、その7つ目には「神の激しい怒りの鉢」始まったのです。

このように終りの日に起こる事々のなんと甚大なことでしょう。もはや人のことばや想像では理解も表現も不可能です。神の終りの日のみわざに對して、人類は全く無力であることを悟りましょう。

ここに対象となっているのは、「獣の像を拜む人々」や「神の御名に對してけがしごとを言う人々」です。もちろんこれは今ではありません。今は、ペテロの手紙にあるように、神は忍耐を持って待っておられるのです。しかしまた人類の争いや憎しみが絶えないことも事実です。そしてそれらの根本が「自己中心」という、神に反する生き方から来ていることを考えるなら、神様は最後のさばきをしない訳にはいかないのです。

神様のさばきがあることを、日常でも心に留めましょう。そしてまた今が「救いのとき」「患のとき」であることを感謝しましょう。何よりも、神を信じて救われた自分自身の救いを感謝しましょう。このような最後の日に備えて、私たちは何をすべきでしょうか。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

